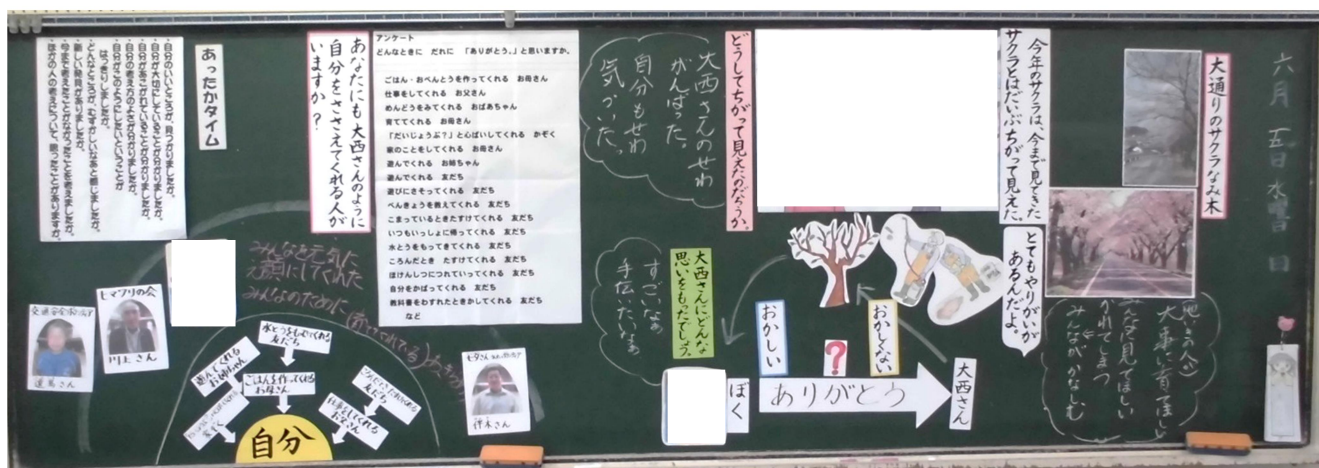


○ 指導の実際 ⑤特別の教科 道徳「大通りのサクラなみ木」【感謝】



- ・毎朝、交通安全ボランティアのTさんが見守ってくれているので安全に学校に来ることができます。
- ・近所に親切なおばあさんがいて、いつも挨拶をしてくれます。
- ・先生たちが勉強を教えてくれるので、ありがとうございます。
- ・地域のKさんがひまわりを育ててくれてありがたいです。
- ・家族や友達だけでなく、地域の人にありがとうございます。

総合的な学習の時間に地域のTさんのお話を聞いたとき、みんなは「Tさんすごい。」と思いましたよね。その時の気持ちと同じなのだと思います。

授業及び道徳学習プログラムの成果 (○) と今後に向けて (●)

- 「自分の日々の生活が多くの人々によって支えられていることに気付き、そうした人々を尊敬し、感謝する心情を育てる。」という本時のねらいに関して、児童一人一人に意識の深まりがみられた。これは、事前に地域の方をゲストティーチャーとして招きお話を伺うという実感を伴った体験があったからである。本時では、自分の体験と結び付けた意見や「地域のKさん」といった、実際にかかわりをもった相手を十分に意識した発言がたくさん出た。
- 本時の学習後、児童は福祉体験を行い、自分も地域の人役に立ちたいという思いをもつようになった。児童の意識の流れを重視し学習をすすめたことにより、それぞれの学習が有機的なつながりをもち、必然性をもった学習になっていった。
- 児童用学習シートを活用したことで、一連のプログラムを児童自身が関係づけながら学習を進めることができた。
- 今年の道徳学習プログラムの効果を踏まえ、教科等との結び付け方や順序、時期、期間など、より有効なプログラムを現在の学年部で協議し、ブラッシュアップを行う。
- 各実践を次年度に残すための取組として、本校では「カリキュラム・ボックス」を設置している。どの学年も、作成した道徳学習プログラム、人材バンク、教材、学習指導案、板書の写真等を整理し、全校的な取組として積み上げるようにする。